Title	大学生および中高生のスポーツ現場におけるマウスガードの認知および利用の実態調査
Sub Title	Survey on the recognition and use of mouthguards for college athletic students
Author	鳥海, 崇(Toriumi, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>大学スポーツは選手の筋量が増大し、競技の速度や難度が向上するため、その危険性も高くなる。選手の安全を確保するためにはマウスガードの利用を促進することが重要である。そこで本研究では大学スポーツのマウスガードの認知とその利用実態を競技横断的に調査した。慶應義塾体育会所属学生1〜3年生1,084名（18-24歳；男子906名，平均年齢19.8歳；女子178名，平均年齢20.2歳）に対して、自記式アンケート調査を行なった。対象競技は米国歯科医師会がマウスガードの着用を推奨する男女のべ30競技（男子20競技，女子10競技）とした。質問項目はマウスガードの認知度，受傷経験，マウスガード使用の有無，使用経験年数等の20項目から構成された。本研究は慶應義塾研究倫理審査委員会の承認を得た(18-012)。男子は20競技で対象者数906名，回答率84.0%であった。女子は10競技で対象者数178名，回答率84.3%であった。認知度は競技別平均で男子90.3%，女子82.2%を示した。利用者割合に関してはマウスガードの利用を義務化している競技は全て100%であった。義務化していない競技はバスケットボール（男子）の77.8%とホッケー（女子）の72.0%を除くと全て40%以下であった。口腔外傷経験者割合の競技別平均は男子が35.6%，女子が38.0%であった。また，発生頻度の競技別平均は男子が1.28[回/人]で女子が0.70[回/人]であった。義務化していない競技において，口腔外傷の経験者割合及び発生頻度が競技別平均より高い競技は，ハンドボール（男女），水球，レスリング，バスケットボール（男子）であった。男女ともマウスガードの認知度は高いものの，必要性認識割合，利用者割合の順に低値となり，マウスガードの有用性を周知させる必要性が示唆された。特にマウスガードの装着が義務化されていない競技では，選手に影響を与える指導者を通じた周知有効だと示唆された。</p> <p>In college sports, the muscle mass of athletes and the speed and difficulty of competitions increase, so the risk of injuries also increases. It is important to promote the use of mouthguards to ensure the safety of athletes. Therefore, in this study, we investigated the recognition of mouthguards in university athletic students and the actual conditions of their use across competitions.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000009-20200033

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	体育研究所	職名	准教授	補助額	1,000 千円
	氏名	鳥海 崇	氏名（英語）	Takashi TORIUMI		
研究課題（日本語）						
大学生および中高生のスポーツ現場におけるマウスガードの認知および利用の実態調査						
研究課題（英訳）						
Survey on the recognition and use of mouthguards for college athletic students						
研究組織						
氏 名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position				
鳥海崇（Takashi TORIUMI）		体育研究所・准教授				
石手靖（Yasushi ISHIDE）		体育研究所・教授				
須田芳正（Yoshimasa SUDA）		体育研究所・教授				
山内賢（Ken YAMAUCHI）		体育研究所・教授				
吉田泰将（Yasumasa YOSHIDA）		体育研究所・准教授				
加藤公司（Koji KATO）		体育研究所・准教授				
坂井利彰（Toshiaki SAKAI）		体育研究所・准教授				
1. 研究成果実績の概要						
<p>大学スポーツは選手の筋量が増大し、競技の速度や難度が向上するため、その危険性も高くなる。選手の安全を確保するためにはマウスガードの利用を促進することが重要である。そこで本研究では大学スポーツのマウスガードの認知とその利用実態を競技横断的に調査した。慶應義塾体育会所属学生1～3年生1,084名（18-24歳、男子906名、平均年齢19.8歳；女子178名、平均年齢20.2歳）に対して、自記式アンケート調査を行なった。対象競技は米国歯科医師会がマウスガードの着用を推奨する男女のべ30競技（男子20競技、女子10競技）とした。質問項目はマウスガードの認知度、受傷経験、マウスガード使用の有無、使用経験年数等の20項目から構成された。本研究は慶應義塾研究倫理審査委員会の承認を得た（18-012）。男子は20競技で対象者数906名、回答率84.0%であった。女子は10競技で対象者数178名、回答率84.3%であった。認知度は競技別平均で男子90.3%、女子82.2%を示した。利用者割合に関してはマウスガードの利用を義務化している競技は全て100%であった。義務化していない競技はバスケットボール（男子）の77.8%とホッケー（女子）の72.0%を除くと全て40%以下であった。口腔外傷経験者割合の競技別平均は男子が35.6%、女子が38.0%であった。また、発生頻度の競技別平均は男子が1.28[回/人]で女子が0.70[回/人]であった。義務化していない競技において、口腔外傷の経験者割合及び発生頻度が競技別平均より高い競技は、ハンドボール（男女）、水球、レスリング、バスケットボール（男子）であった。男女ともマウスガードの認知度は高いものの、必要性認識割合、利用者割合の順に低値となり、マウスガードの有用性を周知させる必要性が示唆された。特にマウスガードの装着が義務化されていない競技では、選手に影響を与える指導者を通じた周知有効だと示唆された。</p>						
2. 研究成果実績の概要（英訳）						
<p>In college sports, the muscle mass of athletes and the speed and difficulty of competitions increase, so the risk of injuries also increases. It is important to promote the use of mouthguards to ensure the safety of athletes. Therefore, in this study, we investigated the recognition of mouthguards in university athletic students and the actual conditions of their use across competitions.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）			
鳥海崇, 森文彦, 坂井利彰, 加藤幸司, 吉田泰将, 須田 芳正, 石手靖	大学運動部員を対象としたマウス ガードの認知および利用の実態調 査	スポーツ歯学	2020年7月			